



活動名「ホタルと花と砂留と」



「自然・歴史・地域を守る砂留」

2020年(令和2年)3月7日 堂々川ホタル同好会情報紙2019年度12号(創刊より 182号)

2020年(令和2年)新型コロナウイルスが猛威を振るい初め、学校や各種の行事が中止・順延になっています。当会も3月17日の水環境文化賞受賞は6月16日に延期となりました

1. 2月16日の定例会は雨の中8名参加。桜の植栽、草刈りと成果はあがりました。3月は総理大臣の要請だから人の集まりの定例会は中止にします。折角、新入の会員さんが増えているのに水を差すようですが、参加者に被害が出たらさ～大変“転ばぬ先の杖”で中止を決めました
2. 堂々川は相変わらず不法投棄が続いています。同じ人間の仕業の気がし、本気で対策中です
3. 今回の裏面は福山市立大学の学生さんの寄稿です。堂々川の砂留周辺の地盤強度を学生さんが調査してくれました
4. 外野席からの出来事にも負けず、堂々川会員有志は堂々川の「景観」造りを続けて草刈り・ごみ拾いをしています。こうした活動があるので水は綺麗を保ち、魚や水生昆虫も増えています 特に昨今は、生物学者や歴史家も多く堂々川に足を運んでおられます
5. 「堂々川彼岸花基金」を設立しました。今後ご寄付をお願いします。QRコード勉強中 「3月のみのだより173号」に掲載されています。既に数件のご寄付をいただきました
6. フォトで見る活動



桜の木の植栽



堂々川5番砂留下斜面草刈り



神辺浪漫の看板 堂々公園



堂々川新迫山橋下の川へ



堂々川 御領新市線の上手



←鳥がごみをあさり散らかす



4番砂留上手左の草刈り



4年ぶり帰ってきたミサゴ



猪・鳶が迫谷入口を耕す？

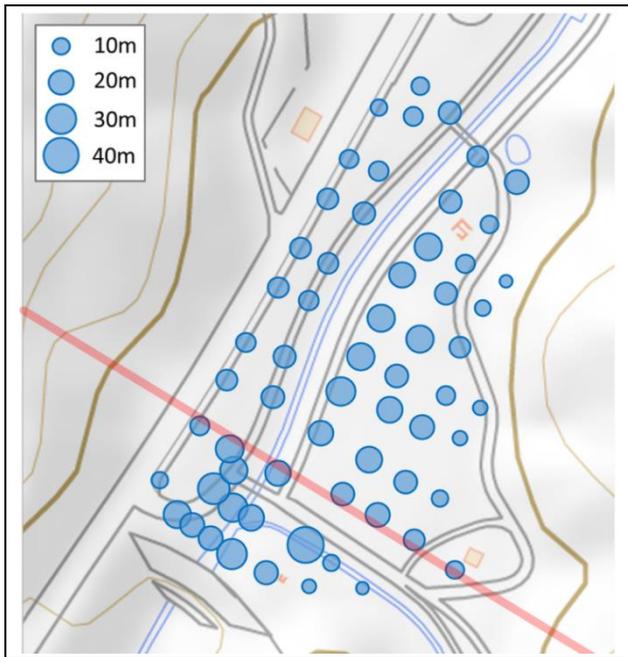
7. 次回の定例会行事

○日時：令和2年3月の定例会は日時の設定をしません。堂々川の御領新市線交点から堂々公園中ほどまでのごみ拾いにご協力ください。捨てている人を見たら、車の番号等を教えてください。監視カメラの設置を要望しています。時間が取れる人は鳶が迫砂留下方の川原と川の中の草刈りをご協力ください。安全には気を付けて！

堂々川六番砂留：土砂に埋もれた過去の地形

堂々川六番砂留は、堂々川下流域の人々を守るために江戸時代に建造された「砂防ダム」のひとつで、城壁のような石組で谷間をふさぎ、土砂で埋め立てた構造をしています。私たちは、堂々公園で微弱な地盤震動を測定し、その地下構造を調べました。

普段、感じ取ることができませんが、地面は常に揺れています。その揺れ方の特徴を調べることによって、その場所の地下構造を推測することができます。次の図は、堂々公園表層のやわらかい地盤の厚みを推測した結果です。

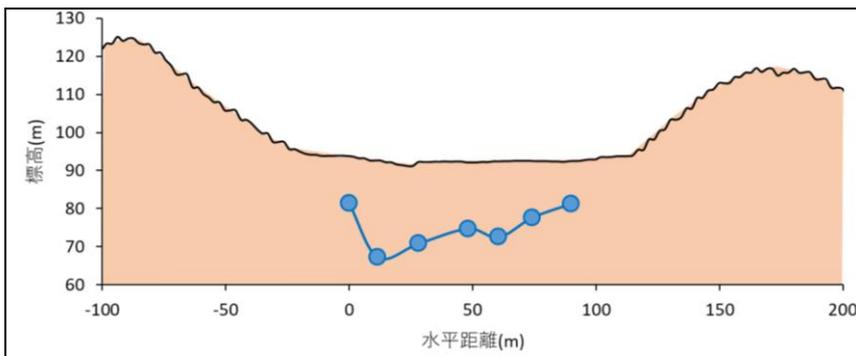


👉 堂々公園表層の厚さ分布

図中の○印の大きさは、測定点直下のやわらかい表層地盤の厚さを表しています。○印が大きいほど、やわらかい土砂が堆積していると考えられます。

※ 地理院地図(国土地理院)に加筆

左図から、○印の大きなやわらかい土砂が厚く堆積した場所は現在の川筋の直下付近にあり、その両脇にいくほど浅くなっていることがわかります。



👉 地下構造の断面図

上図の赤線に沿った地形と地下構造を下流側から見た断面図です。黒線は地表面の形状、青線は推定された表層地盤の底部を示します。

堂々公園表層のやわらかい土砂は、両脇の山の斜面から伸びた谷折りのような地形を埋めるように堆積しています。これは、堂々川六番砂留が造られる前の谷間地形を表しているものと考えられます。現段階では、おおまかな地下構造しかわかっていません。砂留建造前の細かな地形を知るためには、より詳細な調査が必要です。